

## 造形芸術作品の読み取り方

### 序文

作品は一般的な読み取りから始め、詳細の読み取りに入る。最初の読み取りは全体的でなければならない。作品を一瞥して一つのセットとして全体を見る。確固とした揺るぎのない威厳があるか、作品をより深く理解したいという欲望を刺激するかどうか、見よう。

次に詳細の読み取りに入ろう。作品に近づき、入念な仕上がりになっているか注意深く観察しよう。

良い作品は暗示に富んでいなければならない。一度に全てを語るのではなく、不確実性、探究心を生まなくてはいけない。それは尽きることなく、2回以上の読み取りが必要となる。そのようにして、見るものの関心と注意を保つのである。

造形芸術の作品を前にして、我々に肉体的・精神的に感動を呼び起こすか、確認しよう。その作品は、人間に内在する、最も重要な、一般的なことを我々に語りかけるだろうか？ 既知の解釈でなく、歴史的な絵に属するか、社会的で文化的な絵に属するか、考える。自分と作品との間の交流を維持させよう。良い作品は、会話のレシーバーであり、一つの枠に閉じ込められていないので、問題はないのである。

作品の前で、目の前にあるものを見るように努めよう。形や色など、絵を見るだけ、他は見ない。この時 その絵のヒストリーも、誰が創作したのかも、作品名も、私たちの注意をそらす物を一切知る必要はない。目の前の作品を見て、会話を始めるだけでよい。

作品自体が、そのヒストリー・秘密を語り、その時代の人物を見せてくれるのを待とう。作品が私たちの中に入り込み、作品の生まれた世界へ連れて行き、色や形や構成等を通して、その秘密をさらしだすのを待

### 構成の不可欠要素

スペースの配分に均衡が取れているか？ スペースの均衡は、二つ或いはそれ以上の異なった大きさの形が 調和して関係することによって得られる。

原則として、全ての形が同じ場合、作品は均衡を失う。自然は我々にこの現象の良い例を示してくれる。物体はその大きさ、物体間の距離によって、反発したり引き寄せられたりする。ちょうど太陽系の惑星がそうであるように。

### 作品の構成をどのように仕上げるか？

見えない線が作品の骨組みを保っている。内から外へ分析していくと、基本のリズミカルな線から、最も目に入りやすい色合いまでが、方向付けされているのがわかる。

最初に目に付くものは、最後に分析するものである。作品のベースを支える基本的なリズムを見つけ出し、動きを明確にする。

それは、縦・横・斜めの線、或いは形（JやSやX等）、或いは幾何学模様（四角形、三角形など）かもしれない。

我々に最も大きな関心を引き起こし、面を移動させ、作品を終了する。リズムが安定すると、そのリズムが速くても遅くても、軽くても重くても、動きによって作品に奥行きを与えることができる。

色も、面の構成リズムカルな動きを作り出すと同時に、最も関心と呼ぶポイントを強調する、構成の一部である。

色によって、どのように絵に注目させることができるだろうか？明るい色は最も我々の注目を呼び、作品の最終的な解釈に導く。

色によって、明暗法によって、面の違いを明確にするコントラスト（対称）を作り出すことができる。

このコントラストが 作品に存在を可能にする。つまりは、絵の中に見出せる全てはコントラストなのである。光や色も、この観点から、同様である。

コントラストによって物の区別を明確にし、そこに絵画的アイデアと豊かな表現力を加え、違う物質でありながら調和の取れた色を生み出すことができるのである。

### 画家は形によってどのように内容を表現できるか？

全ての構成要素は、お互いに関係しあっている。形は描くものの姿・コントラスト・大きさ・色などを明示し、境界を定める。また、それら無しでは、形は認識されない。

最終的に、あまり際立っていないくともコントラストが、全体をまとめているのである。全ての絵画要素は、コントラストに影響を及ぼし、我々が見ているままの物として認知されるに貢献している。

余っても欠けてもいない。画家が使用する画材は それ自体が我々にスタイルを与え、イメージの心理的解釈に直接影響する。

全ての芸術家は、好むと好まざるとに関わらず、彼の世界観を作品に反映させている。それは 描く素材、材料、大きさ、筆遣いが作り出す脈

拍の振動、素材を秩序立てる際の無意識の傾向、決められたテーマの選択などにおいて 見ることができる。